

令和 3 年度 決算説明資料

令和 4 年 10 月 6 日
防災危機管理局

目 次

	頁
1 産学官連携等による取り組みについて……………	1
2 港防災センターの利用実績について……………	2
3 新型コロナウイルス感染症対策の普及啓発に関する 取り組みについて……………	3
4 各区総合水防訓練の実施状況について……………	4
5 指定避難所開設・運営訓練の実施状況について……………	5
6 感震ブレーカー設置助成について……………	5
7 陸前高田市との交流の取り組みについて……………	6
8 小中学校等における防災教育への講師派遣について……………	9
9 陸前高田市における交流を通じた職員人材育成について……………	10

1 産学官連携等による取り組みについて

(1) 民間企業や研究機関との連携による防災施策の推進

区 分	主 な 内 容
民 間 企 業	・ 無人航空機の運用による災害情報の収集 ・ 避難所等における良好な生活環境の確保 ・ 大規模災害時における本市及び他自治体間の応援職員にかかる宿泊施設等の確保
研 究 機 関	・ 災害対策本部における地理情報システム等を活用した各種情報の収集・分析体制の構築に向けた共同研究会の開催

(2) 防災人材育成の推進

ア 市民、事業者、市職員の防災人材育成のための研修等の実施
(BCP講習会、防災基礎研修、防災専門研修など)

イ 名古屋市防災人材育成方針の策定

(ア) 基本理念

市民・事業者・市職員一人ひとりが、日頃から防災・減災を意識し、行動することが当たり前となる社会を構築することにより、災害に強いまちナゴヤを実現する。

(イ) めざすべき姿

区 分	内 容
市 民	・ 自ら考え、自分や家族の命を守る行動がとれる ・ 地域住民と協力して、お互いに助け合うことができる
事業者	・ 来所者・従業員や事業所を守り、事業を継続できる ・ 地域や市と協力して、地域と共に災害を乗り越えることができる
市職員	・ 迅速かつ的確に災害対応業務を実施できる ・ 防災を意識した業務運営に取り組むことができる

2 港防災センターの利用実績について

(1) 来館者数の推移

区 分	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
来 館 者 数	人 62,502	人 67,597	人 59,099	人 11,210	人 18,937
個 人 利 用	38,757	41,004	33,334	8,711	15,012
団 体 利 用	23,745	26,593	25,765	2,499	3,925
学 校 ・ 幼 稚 園	9,774	10,776	8,839	1,568	2,746
地 域 団 体	4,690	6,311	6,349	182	515
企 業	2,002	2,428	2,537	347	108
そ の 他	7,279	7,078	8,040	402	556

(2) 特別講座の参加者数の推移

ア 港防災センターの施設内

区 分	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
防 災 ト ー ク	人 2,445	人 2,934	人 2,257	人 379	人 930
ぼうさい教室	4,671	4,562	4,117	998	3,964

イ 港防災センターの施設外

区 分	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度
出前防災トーク	人 470	人 2,400	人 2,235	人 2,157	人 2,327
オンライン 防 災 ト ー ク	—	—	—	198	994
出前ぼうさい教室	1,396	9,803	1,836	512	182

3 新型コロナウイルス感染症対策の普及啓発に関する 取り組みについて

区 分	主 な 内 容
緊急事態宣言・まん延防止等重点措置に関する啓発	・ SNS (Twitter、Facebook 等) や市公式ウェブサイト、街頭の電光掲示板等を活用して、行動規制等についての啓発を実施
事業者向け啓発	・ ポスター・チラシ、街頭の電光掲示板等を活用して、事業所における感染防止対策についての啓発を実施 (NAGOYA ビジネススタイル NB i z)
若者向け啓発	・ 市内大学の学生団体と連携し、ポスター・チラシ、ウェブや映画館での広告等を活用して、若者向けの啓発を実施 (#それコロナじゃね？困ったら、まずは相談しよう。)
そ の 他	・ SNS (Twitter、Facebook 等) を活用して、感染状況や感染防止対策について毎日発信 ・ 毎月発行している「名古屋市発！新型コロナナだより」、広報なごや等を活用して、季節に応じた感染防止対策やトピック等について発信

4 各区総合水防訓練の実施状況について

区 分	実 施 日	主 な 内 容
千種区	6月17日	重要水防箇所等の巡視
東 区	6月 8日	各公所間での情報伝達訓練
北 区	6月21日	各公所間での情報伝達訓練
	6月23日	重要水防箇所等の巡視、区連絡会議開催
西 区	6月10日	重要水防箇所等の巡視、各公所間での情報伝達訓練
中村区	6月18日	区本部の初動体制確立訓練
中 区	6月11日	区役所への参集、各公所間での情報伝達訓練
昭和区	5月31日	各公所間での情報伝達訓練
瑞穂区	5月26日	各公所間での情報伝達訓練
熱田区	5月10日	幹部職員に対する研修
	6月 8日	水防工法訓練
	6月23日	資機材点検、アンダーパス巡視
中川区	6月21日	新川堤防陸閘門の開閉操作訓練
港 区	5月30日	各公所間での情報伝達訓練、浸水歴のある箇所の巡視
南 区	6 月 中	水防工法に関する教養（資料の送付）
守山区	5月17日	水防工法に関する教養
緑 区	6月22日	各公所間での情報伝達訓練、土砂災害警戒区域等の巡視
名東区	5月 7日	重要水防箇所等の巡視、水防対策DVDの配布
天白区	5月29日	水防工法訓練

（注）新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、住民参加型訓練を中止

5 指定避難所開設・運営訓練の実施状況について

区 分	実施回数	参加人数
令和元年度	306回	38,684人
令和3年度	132	9,012

6 感震ブレーカー設置助成について

(1) 助成内容

対 象 者	名古屋市内に住宅を所有または居住する方	
対 象 地 域	主な木造住宅密集地域	左 記 以 外 の 地 域
助 成 額	・設置費の1/2 ・上限額4万円 ・新築時の場合は一律1万円	・設置費の1/3 ・上限額2万6千円 ・新築時の場合は一律6千円
戸 数	100戸	480戸

(2) 実績

ア 内訳

区 分	主な木造住宅 密 集 地 域	左記以外の地域	計
令和2年度	66戸	461戸	527戸
令和3年度	0	479	479

イ 主な啓発内容

- ・市公式ウェブサイト及び広報なごやへの募集案内等の掲載
- ・感震ブレーカーの有用性や助成制度を周知するチラシの配布

7 陸前高田市との交流の取り組みについて

(1) 市民の交流

ア 市民交流団の派遣

防災、スポーツ、産業、文化の4つの分野における市民の活動を通じて、両市の市民や団体の親交を深めるため、陸前高田市へ市民交流団を派遣した。

区 分	時 期	主な内容
防 災	令和3年 11月12日 ～11月14日	・陸前高田市長等による講話 ・被災経験等を通じた交流 ・沿岸地域での津波避難体験
スポーツ	令和4年 2月5日 ～2月6日 (派遣中止)	・サッカーの交流試合(中止) ・交流記念ペナントの送付
産 業	令和3年 10月29日 ～11月22日	・名古屋ご当地グルメを味わうイベントの開催
文 化	令和4年 2月13日	・陸前高田市芸術文化協会周年イベントでの講演(オンライン実施)

イ 名古屋市及び陸前高田市市民交流事業補助制度

両市における市民交流の促進に資することを目的として、交流事業を実施する団体に対する補助を実施した。

補 助 金 額：上限10万円

交付団体数：2団体(15万円交付)

(2) 産業交流

ア 陸前高田市で開催されるイベントへの出展

陸前高田市産業まつりにおいて、なごやめしの提供を行う名古屋市ブースを出展し、陸前高田市民や地元商工業者との交流を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。

イ 本市で開催されるイベントへの出展

名古屋まつりや名古屋城夏まつり等のイベントの中止及び縮小に伴い、東山動植物園において「絆の日」交流事業と併せて物販ブースを出展し、陸前高田産品の販売やPRを実施した。

(3) 文化交流

ア 市民美術展等での相互展示

両市で開催されている市民美術展等において、両市の市民の優秀作品を隔年で相互に展示し、交流を図っており、令和3年度は陸前高田市で開催された市民芸術祭において、名古屋高年大学鯉城学園で美術を専攻する学生の優秀作品を展示した。

時 期：令和3年10月30日～11月1日

展示作品：陸前高田市市民芸術祭の優秀作品と併せて名古屋高年大学鯉城学園学生の優秀作品を展示

イ イベントにおける郷土芸能の披露

令和4年3月に名古屋城でのイベントに陸前高田市の芸能団体を招待し、名古屋市民の前で郷土芸能を披露する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。

(参考) 子どもたちの交流

平成24年に陸前高田市と名古屋市の両教育委員会において締結した「絆協定」により、両市の子どもたちによる相互訪問等を通して交流を深めるとともに、両市の将来のまちづくりを担う人材の育成を図った。

(1) 本市の中学生による陸前高田市訪問

区 分	内 容
時 期	令和3年10月29日～10月31日
訪問者数	38名〔千種区7校、中村区7校、中区1校、守山区8校、名東区8校、天白区7校より各1名〕
主な行程	<1日目> 移動（午後名古屋市を出発） <2日目> 陸前高田市震災遺構の見学 中学生交流会、陸前高田市長からの講話 東日本大震災津波伝承館の見学等 <3日目> いのちをつなぐ未来館の見学
生徒の 主な声	・これまでニュースでも東日本大震災の悲惨さを見るのがつらく、目を背けていたが、自分たちの役割はこの教訓を未来につなげることだと気づけた。 ・現地の方のお話を聞くことで、震災への思いを直に感じられた。震災を経験していない若い世代にこそ伝えていかなければならないと思った。 ・もし、自分がこのような災害に直面したら、何をすべきなのかを考え行動していくことが重要であると改めて感じた。

(2) 陸前高田市の中学生による名古屋市訪問

令和4年1月に実施予定だったが新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮して中止し、代わりにオンラインで意見交換を実施した。

区 分	概 要
実 施 日	令和4年2月23日
主な内容	・両市生徒代表によるあいさつや両市紹介 ・学校での防災の取り組みについて意見交換

8 小中学校等における防災教育への講師派遣について

(1) 実績

区 分	校 数	受 講 人 数
小 学 校	16 校	1,532 人
中 学 校	4	900
特別支援学校	2	97
計	22	2,529

(2) 意見

区 分	主な内容
児童生徒	・地震が起きた時のために備えをしておかないといけない。 ・もしもの時のことを家族と話しあっておきたい。 ・避難訓練に真剣に取り組みたい。
教 職 員	・通常授業で取り上げる内容と共通する部分が多く、子ども達の学習の理解が深まった。 ・避難の重要性を説くことで、学校で行われる避難訓練に臨む子ども達の意識が高まった。 ・現地の震災前後の様子が写真からよく分かった。私たち教員が知り得る情報は限られているので、違う視点でお話や資料を提示していただけたので良かった。

9 陸前高田市における交流を通じた職員人材育成について

時 期	参加人数	主な内容
令和3年 11月8日 ～11月12日	3人	・東日本大震災津波伝承館や震災遺構等の視察
11月29日 ～12月3日	4	・陸前高田市民や元教職員等へ発災時の状況・教訓・復興に向けた取り組み等をヒアリング
12月13日 ～12月17日	3	・名古屋市派遣職員へ復興支援状況をヒアリング
計	10	・陸前高田市職員との交流ワークショップ